



2024年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2023年10月30日
上場取引所 東

上場会社名 第一工業製薬株式会社
 コード番号 4461 URL https://www.dks-web.co.jp
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 山路 直貴
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 (氏名) 清水 伸二 TEL 075-323-5955
 四半期報告書提出予定日 2023年11月9日 配当支払開始予定日 2023年12月6日
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：有

(百万円未満切捨て)

1. 2024年3月期第2四半期の連結業績（2023年4月1日～2023年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第2四半期	29,200	△10.9	△449	—	△379	—	△478	—
2023年3月期第2四半期	32,765	7.8	717	△70.7	872	△59.5	△396	—

(注) 包括利益 2024年3月期第2四半期 883百万円 (15.4%) 2023年3月期第2四半期 765百万円 (△56.0%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年3月期第2四半期	△50.03	—
2023年3月期第2四半期	△40.00	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2024年3月期第2四半期	91,188	38,715	37.8	3,600.55
2023年3月期	85,025	38,296	40.4	3,593.49

(参考) 自己資本 2024年3月期第2四半期 34,457百万円 2023年3月期 34,346百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年3月期	—	40.00	—	40.00	80.00
2024年3月期	—	20.00	—	—	—
2024年3月期（予想）	—	—	—	30.00	50.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2024年3月期の連結業績予想（2023年4月1日～2024年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	62,000	△4.7	1,500	26.4	1,300	8.3	400	—	41.81

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有
 連結業績予想の修正につきましては、本日（2023年10月30日）公表いたしました「第2四半期連結業績予想と実績との差異及び通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 一社 （社名）－、除外 一社 （社名）－

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2024年3月期2Q	10,684,321株	2023年3月期	10,684,321株
② 期末自己株式数	2024年3月期2Q	1,114,306株	2023年3月期	1,126,227株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2024年3月期2Q	9,563,893株	2023年3月期2Q	9,916,768株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等)	11
(収益認識関係)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症による制限が緩和され、経済活動の正常化が進みました。一方、長期化する地政学リスクや世界的な金融引き締めの影響による円安の進行により、原材料・エネルギーコストの高止まりをはじめ様々な物価が上昇するなど、先行きは不透明な状態が続いております。

そのような環境のもと、当社グループでは主要分野の市況悪化、原材料・エネルギー上昇分の価格転嫁遅れなどから、利益を圧迫する結果となりました。まずは、確実な利益確保のために適正価格への転換を進めます。さらに、研究開発効率の改善と工場稼働率の向上、新規事業の収益化を加速させます。中期経営計画「FELIZ 115」計画の修正値から2030年に向けた次期中期経営計画「SMART2030(仮)」の目指す姿に向かって、電子・情報・環境・エネルギー、ライフサイエンスの重点3分野へ経営資源を集中投入し、収益構造を改革してまいります。

当第2四半期連結累計期間の業績としましては、『機能材料』セグメントの海外向け難燃剤が大きく落ち込んだことにより、売上高は292億円（前年同期比10.9%減）となりました。

損益面につきましては、原材料・エネルギー価格の高騰や、『機能材料』セグメントや『電子デバイス材料』セグメントでの販売が大きく落ち込んだことにより、営業損失は4億49百万円（前年同期は7億17百万円の利益）、経常損失は3億79百万円（前年同期は8億72百万円の利益）、親会社株主に帰属する四半期純損失は4億78百万円（前年同期は3億96百万円の損失）となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

<界面活性剤>

界面活性剤の売上高は、総じて低調に推移しました。

国内では、塗料・色材用途は堅調に推移しましたが、IT・電子用途、ゴム・プラスチック用途は低調に推移しました。石鹼・洗剤用途は大きく落ち込みました。

海外では、ゴム・プラスチック用途、塗料・色材用途は堅調に推移しました。

その結果、当セグメントの売上高は88億9百万円（前年同期比7.6%減）となりました。

営業利益は、売上が落ち込んだことに加え、原材料価格高騰の影響を受け6億21百万円（前年同期比31.3%減）となりました。

<アミニティ材料>

アミニティ材料の売上高は、総じて低調に推移しました。

国内では、シヨ糖脂肪酸エステルは食品用途が堅調に推移しましたが、セルロース系高分子材料はエネルギー・環境用途が低調に推移し、ビニル系高分子材料はゴム・プラスチック用途が低調に推移しました。

海外では、シヨ糖脂肪酸エステルは香粧品用途が堅調に推移しましたが、食品用途は低調に推移しました。

その結果、当セグメントの売上高は39億93百万円（前年同期比4.0%減）となりました。

営業利益は、売上高の落ち込みを営業経費の削減などによりカバーし75百万円（前年同期比29.6%増）となりました。

<ウレタン材料>

ウレタン材料の売上高は、総じて堅調に推移しました。

フロム規制に関連する環境配慮型の合成潤滑油は低調に推移しましたが、公共工事に関連する土木用薬剤は大幅に伸長しました。

その結果、当セグメントの売上高は43億95百万円（前年同期比4.2%増）となりました。

営業利益は、原材料価格高騰の影響を受け1億96百万円の営業損失（前年同期は1億98百万円の損失）となりました。

<機能材料>

機能材料の売上高は、総じて大きく落ち込みました。

国内では、光硬化樹脂用材料はI・T・電子用途が大幅に伸ばしましたが、難燃剤はゴム・プラスチック用途が大きく落ち込み、水系ウレタンは繊維用途が大きく落ち込みました。

海外では、光硬化樹脂用材料はI・T・電子用途が大きく落ち込み、難燃剤はゴム・プラスチック用途が大きく落ち込みました。

その結果、当セグメントの売上高は92億31百万円（前年同期比19.9%減）となりました。

営業利益は、売上が大きく落ち込んだことに加え、原材料価格高騰の影響を受け4億7百万円の営業損失（前年同期は2億48百万円の利益）となりました。

<電子デバイス材料>

電子デバイス材料の売上高は、総じて大きく落ち込みました。

ディスプレイ用途のイオン液体は堅調に推移したものの、太陽電池用途の導電性ペーストが大きく落ち込みました。

その結果、当セグメントの売上高は26億13百万円（前年同期比15.5%減）となりました。

営業利益は、売上高が大きく落ち込んだことにより60百万円の営業損失（前年同期は1億52百万円の利益）となりました。

<ライフサイエンス>

ライフサイエンスの売上高は、前年同期と比べ84百万円減少し、1億57百万円（前年同期比34.8%減）となりました。

医薬品添加物や天然素材からの抽出物の濃縮化、粉末化による健康食品等の受託事業は低調に推移しました。

営業利益は、売上高が大きく落ち込んだほか、研究開発費を中心に営業経費が増加したことにより4億82百万円の営業損失（前年同期は4億48百万円の損失）となりました。

2025年3月期には、ライフサイエンス事業の黒字化に目途を立てるべく、①2023年8月に発売を開始した中高年の認知機能の一部である認知機能速度や視覚的な記憶力を維持するのに役立つ機能性表示食品「快脳冬虫夏草」を中心とするBtoC、②カイク冬虫夏草粉末やスタチ果皮エキスなど素材販売を狙ったBtoB、③グループ会社である池田薬草の受託事業拡大などにより、事業の収益化を図ります。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第2四半期連結会計期間末における流動資産は504億26百万円となり、前連結会計年度末に比べ50億15百万円増加しました。これは主に、商品及び製品などの棚卸資産の合計が16億26百万円減少したものの、現金及び預金が61億30百万円、電子記録債権が4億25百万円増加したことなどによるものです。固定資産は407億61百万円となり、前連結会計年度末に比べ11億47百万円増加しました。これは主に、有形固定資産の合計が4億40百万円、投資有価証券が8億円増加したことなどによるものです。

この結果、総資産は911億88百万円となり、前連結会計年度末に比べ61億62百万円増加しました。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末における流動負債は220億9百万円となり、前連結会計年度末に比べ13億69百万円増加しました。これは主に、支払手形及び買掛金が9億5百万円減少したものの、短期借入金が11億61百万円、設備関係未払金などのその他（流動負債）が11億59百万円増加したことなどによるものです。固定負債は304億64百万円となり、前連結会計年度末に比べ43億75百万円増加しました。これは主に、長期借入金が45億64百万円増加したことなどによるものです。

この結果、負債合計は524億73百万円となり、前連結会計年度末に比べ57億44百万円増加しました。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は387億15百万円となり、前連結会計年度末に比べ4億18百万円増加しました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純損失4億78百万円及び剰余金の配当3億82百万円などにより利益剰余金が8億60百万円減少しましたが、その他有価証券評価差額金6億30百万円、為替換算調整勘定が3億46百万円、非支配株主持分が3億7百万円増加したことなどによるものです。

この結果、自己資本比率は37.8%（前連結会計年度末は40.4%）となりました。

（キャッシュ・フローの状況）

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末と比べて61億27百万円増加し、151億79百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

<営業活動によるキャッシュ・フロー>

営業活動の結果、得られた資金は21億38百万円（前年同期は5億95百万円）となりました。これは、仕入債務の減少8億42百万円（前年同期は11億40百万円の増加）などにより資金が減少したことに対し、棚卸資産の減少18億5百万円（前年同期は12億33百万円の増加）、減価償却費16億3百万円（前年同期は16億75百万円）などにより資金が増加したことによるものです。

<投資活動によるキャッシュ・フロー>

投資活動の結果、使用した資金は10億9百万円（前年同期は13億20百万円）となりました。これは、有形固定資産の取得による支出10億89百万円（前年同期は12億21百万円）などにより資金が減少したことによるものです。

<財務活動によるキャッシュ・フロー>

財務活動の結果、得られた資金は48億26百万円（前年同期は44億55百万円の支出）となりました。これは、長期借入金の返済27億3百万円（前年同期は29億4百万円）などにより資金が減少したことに対し、長期借入れによる収入79億3百万円（前年同期は5億円）により資金が増加したことによるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2024年3月期の連結業績予想につきましては、最近の業績動向を踏まえ修正いたしました。詳細につきましては、本日（2023年10月30日）公表の「第2四半期連結業績予想と実績との差異及び通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	9,128	15,259
受取手形及び売掛金	15,105	15,172
電子記録債権	2,218	2,643
商品及び製品	13,131	11,718
仕掛品	16	19
原材料及び貯蔵品	3,489	3,273
前払費用	369	569
その他	1,956	1,774
貸倒引当金	△3	△3
流動資産合計	45,411	50,426
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	12,834	13,065
機械装置及び運搬具(純額)	4,650	5,972
工具、器具及び備品(純額)	800	1,003
土地	9,748	9,976
リース資産(純額)	2,338	2,177
建設仮勘定	2,369	988
有形固定資産合計	32,743	33,183
無形固定資産	341	328
投資その他の資産		
投資有価証券	4,274	5,074
長期貸付金	14	14
長期前払費用	512	419
繰延税金資産	299	254
退職給付に係る資産	1,063	1,120
その他	371	371
貸倒引当金	△6	△6
投資その他の資産合計	6,529	7,248
固定資産合計	39,614	40,761
資産合計	85,025	91,188

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	9,972	9,066
電子記録債務	379	488
短期借入金	6,516	7,678
リース債務	474	479
未払費用	308	304
未払法人税等	232	192
未払事業所税	41	20
賞与引当金	712	616
その他	2,002	3,161
流動負債合計	20,639	22,009
固定負債		
社債	6,000	6,000
長期借入金	17,348	21,913
リース債務	2,131	1,936
繰延税金負債	196	177
退職給付に係る負債	79	94
資産除去債務	74	74
その他	259	268
固定負債合計	26,089	30,464
負債合計	46,729	52,473
純資産の部		
株主資本		
資本金	8,895	8,895
資本剰余金	7,276	7,266
利益剰余金	19,250	18,389
自己株式	△2,488	△2,461
株主資本合計	32,933	32,089
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	467	1,097
為替換算調整勘定	765	1,111
退職給付に係る調整累計額	180	159
その他の包括利益累計額合計	1,413	2,368
非支配株主持分	3,949	4,257
純資産合計	38,296	38,715
負債純資産合計	85,025	91,188

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
売上高	32,765	29,200
売上原価	26,080	24,044
売上総利益	6,684	5,156
販売費及び一般管理費	5,967	5,605
営業利益又は営業損失(△)	717	△449
営業外収益		
受取利息	4	2
受取配当金	50	64
持分法による投資利益	44	0
為替差益	169	130
その他	76	94
営業外収益合計	346	293
営業外費用		
支払利息	90	123
社債利息	18	18
その他	81	81
営業外費用合計	191	223
経常利益又は経常損失(△)	872	△379
特別損失		
固定資産処分損	42	40
減損損失	786	—
のれん償却額	137	—
特別損失合計	966	40
税金等調整前四半期純損失(△)	△93	△419
法人税、住民税及び事業税	259	150
法人税等調整額	△230	△235
法人税等合計	29	△85
四半期純損失(△)	△122	△334
非支配株主に帰属する四半期純利益	273	143
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△396	△478

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
四半期純損失(△)	△122	△334
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	29	630
為替換算調整勘定	829	639
退職給付に係る調整額	△23	△22
持分法適用会社に対する持分相当額	52	△29
その他の包括利益合計	887	1,217
四半期包括利益	765	883
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	159	476
非支配株主に係る四半期包括利益	605	406

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純損失(△)	△93	△419
減価償却費	1,675	1,603
のれん償却額	213	—
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△0	△0
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	△93	△67
受取利息及び受取配当金	△55	△67
支払利息	90	123
社債利息	18	18
持分法による投資損益(△は益)	△44	△0
減損損失	786	—
固定資産処分損	42	40
売上債権の増減額(△は増加)	△1,120	△333
棚卸資産の増減額(△は増加)	△1,233	1,805
仕入債務の増減額(△は減少)	1,140	△842
その他	△245	384
小計	1,080	2,244
利息及び配当金の受取額	85	64
利息の支払額	△108	△142
法人税等の支払額	△461	△28
営業活動によるキャッシュ・フロー	595	2,138
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△76	△78
定期預金の払戻による収入	77	79
有形固定資産の取得による支出	△1,221	△1,089
投資有価証券の取得による支出	△1	△1
関係会社出資金の払戻による収入	—	106
その他	△98	△26
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,320	△1,009
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	327	341
長期借入れによる収入	500	7,903
長期借入金の返済による支出	△2,904	△2,703
リース債務の返済による支出	△267	△228
自己株式の取得による支出	△1,499	—
配当金の支払額	△458	△382
非支配株主への配当金の支払額	△152	△103
財務活動によるキャッシュ・フロー	△4,455	4,826
現金及び現金同等物に係る換算差額	191	171
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△4,989	6,127
現金及び現金同等物の期首残高	12,151	9,051
現金及び現金同等物の四半期末残高	7,161	15,179

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	界面活性剤	アメニティ材料	ウレタン材料	機能材料	電子デバイス材料	ライフサイエンス	合計
売上高							
顧客との契約から生じる収益	9,534	4,158	4,218	11,518	3,093	242	32,765
外部顧客への売上高	9,534	4,158	4,218	11,518	3,093	242	32,765
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	9,534	4,158	4,218	11,518	3,093	242	32,765
セグメント利益又は損失(△) (営業利益又は営業損失)	904	58	△198	248	152	△448	717

(注) 報告セグメント利益又は損失の合計金額と四半期連結損益計算書の営業利益は一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

当社のウレタン材料セグメントについては、前第2四半期連結累計期間において、原材料価格の高騰に対する製品価格の是正活動及び新規開発活動が遅れたことにより、収益性が低下いたしました。これに伴い、当社のウレタン材料セグメントの資産グループに属する固定資産の帳簿価額を回収可能価額まで減額し、その金額を減損損失として特別損失に計上いたしました。

なお、当該資産グループの回収可能価額は使用価値により測定しておりますが、将来キャッシュ・フローが見込めないため零としております。

(のれんの金額の重要な変動)

前第2四半期連結累計期間において、「連結財務諸表における資本連結手続に関する実務指針」(日本公認会計士協会 最終改正2018年2月16日 会計制度委員会報告第7号)第32項の規定に基づき、ライフサイエンスセグメントにおけるのれんを償却したことにより、のれん償却額137百万円を特別損失に計上しております。

II 当第2四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	界面活性剤	アメニティ材料	ウレタン材料	機能材料	電子デバイス材料	ライフサイエンス	合計
売上高							
顧客との契約から生じる収益	8,809	3,993	4,395	9,231	2,613	157	29,200
外部顧客への売上高	8,809	3,993	4,395	9,231	2,613	157	29,200
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	8,809	3,993	4,395	9,231	2,613	157	29,200
セグメント利益又は損失(△) (営業利益又は営業損失)	621	75	△196	△407	△60	△482	△449

(注) 報告セグメント利益又は損失の合計金額と四半期連結損益計算書の営業損失は一致しております。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、「注記事項(セグメント情報等)」に記載のとおりであります。